

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2003年（平成15年）7月25日号 No. 1267

目次

● それからのベラルーシ 服部 倫卓 1	
—劣化する経済と対ロシア関係—	
● エトセトラ 10	
日露ビジネス促進セミナー「ロシア・デー」のご案内／10	
洋上研修 2003年度「生産性の船」のご案内／10	
キルギス貿易産業省が日本語サイトを立ち上げ／10	
● ロシア東欧貿易会関連の行事予定 11	
● CIS・中東欧諸国通貨の為替レート 11	

それからのベラルーシ —劣化する経済と対ロシア関係—

はじめに

6月下旬、筆者は約1年半ぶりにベラルーシを訪れ、現地調査を行う機会をもった。前回同国を訪れたのは大統領選挙（2001年9月）でルカシェンコが再選を果たした直後であり、その時の見聞も踏まえ、二期目のルカシェンコ政権の下で同国の経済と対ロシア関係がどのような方向に進んでいくかを占ったレポートを発表している（「ジレンマに直面する大統領選後のベラルーシ —経済と対ロシア関係の行方—」『ロシア東欧貿易調査月報』2001年12月号）。

それから1年数カ月が経ち、久々に現地に行ってみて、ベラルーシの国情が悪化しつつあるのを改めて実感した。2001年当時取り沙汰されていた経済の自由化、ロシア資本の進出による民営化の進展という期待は、見事に裏切られた。プーチン政権のロシアがベラルーシを文明的な路線に導くというシナリオは、現在までのところ画餅にとどまっている。国民のルカシェンコ大統領への支持率が低下傾向をたどっているにもかかわらず、大統領は三選に道を開く憲法改定の実施を模索しており、国際的な孤立が深まるなか、体制はますます「力」で維持されるようになっている。

本稿では、6月の現地調査の成果を中心に、ルカシェンコ再選後のベラルーシの最新事情についてお伝えする。